

農業濁水防止のための管理作業マニュアル(手順書) ～時期別のポイント～

これらの管理作業は、農業濁水防止のためだけでなく、水持ち改善による除草剤の効果向上、土壌の酸欠防止による生育改善につながるため、必ず実践ください。

①秋の管理作業（平耕起）

- 稲わらがきっちりとしき込まれる作業速度と耕深で実施。
- ロータリを用いる場合は、ほ場に水がたまるのを防止するため、土壌条件に応じた幅で平畦耕を実施。



②春の管理作業（あぜ塗り作業、春耕）

- あぜ塗り作業は、あぜの亀裂を防止するため、3月下旬以降の湿った土壌条件で実施。
- 雑草が発生している場合は、作業前に必ず除草する。



- 春耕は、砕土と抑草のため、乾いた土壌条件で2回程度実施。



③代かき作業（荒代、植代）

- 入水は、春耕で土塊を細かく砕いて、春雑草を抑えてから実施。
- 適量入水（土面が70%以上見える程度）で浅水代かきを実施。



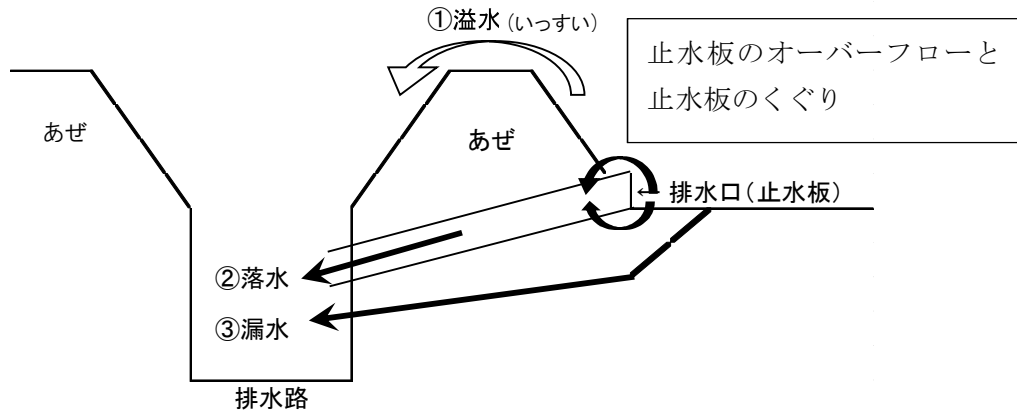
④田植え作業

- 植代から田植えまでは、原則、入水しない。
- かつ、降雨があっても落水しないことを実践。
- 田植え作業は、代かき後に田植えが可能な土壌条件になったら、速やかに作業を実施（水深3cm以下が目安）。



○ 農業濁水発生の原因と対応策

確認時期ごとに対応策を実施し、①～③の区分の濁水発生の防止に努めてください。



区分	原因	確認時期	対応策
① 溢水 (いっすい)	1 あぜの形成が不十分	入水前	・あぜの補修作業（あぜ塗り作業）
	2 深水による代かき	代かき時	・浅水代かきの励行
	3 降雨	入水後 随時	・溢水しない高さに止水板を設置
		代かき時	・浅水代かきによるリスク回避
		代かき後	・代かき後の未入水を励行
4 用水の入れっぱなし	入水後 随時	・水管理の状況把握のため、定期的にはほ場巡回を実施	
② 落水	1 止水板の設置方法	入水後 随時	・止水板の周辺から漏水しないように止水板を設置確認
	2 代かき前の強制落水	入水後 随時	・水管理の状況把握のため、定期的にはほ場巡回を実施
	3 田植え前の強制落水	代かき時	・浅水代かきによるリスク回避
		田植え時	・代かき後の未入水田植えを励行
③ 漏水	1 あぜやあぜ際からの漏水	入水後 随時	・水管理の状況把握のため、定期的にはほ場巡回を実施
		入水前	・作付前に漏水箇所の点検と修繕
		入水前	・あぜの補修作業（あぜ塗り作業）
		入水前	・入水前にあぜ際をトラクタで踏圧
		入水前 から随時	・排水路のひび割れ・水漏れの点検および修繕
入水後 随時	・漏水状況把握のため、定期的にはほ場巡回を実施		